

2011年7月28日

京都市長様

(京都市 緑政課 様)

(京都市 北部みどり管理事務所 様)

洛西ニュータウン創生推進委員会

委員長 勝本 竹彦

環境部会長 藤原 篤

洛西ニュータウンの樹木剪定対応、景観維持について（要望）

拝啓

平素は洛西ニュータウンの街路樹、緑道、公園、緑地等の維持管理にご尽力下さりあり難うございます。

私達「洛西ニュータウン創生推進委員会」は、2007年6月に「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」に示された「緑とゆとりを守り、各世代が支えあう心豊かに共生出来るまち」の実現に向け、住民が主体となり行政の支援を頂きながら、これからのまちづくりを推進するために発足したボランティアの会です。

本委員会の部会の一つである「環境部会」では、「自然環境の保全と美しいまちなみづくり」を目指し、次世代に継承するための諸活動を行なっています。

洛西ニュータウンの緑の豊かさは、街路樹の高木約3,500本を始め、低木も含めて約74,000本以上もあり、更に25ヶ所もある公園には約65,000本も植樹されています。これらはまた周辺の良い自然環境を守る観点から「原則として大きく育てる」方針の基に維持管理されてきました。

35年以上の年月の経過と共に落ち着いた緑豊かな景観は、洛西ニュータウンさらには京都市のかけがえない大切な財産となり、四季折々に住民はもちろん、訪れる方々の目を楽しませ、癒してくれています。

ところが、ここ2～3年の京都市の植栽維持管理である街路樹や公園の剪定は、あまりにも短く刈り込む強剪定などで、景観上から非常に問題のある作業が散見されます。経費節減や住民からの枯葉などの苦情への対応だと思われそうですが、結局大切な財産が立ち枯れという誠に残念な結果を生じています。

例えば、竹の里公園のメタセコイアは、強剪定の結果全て丸坊主となり、電柱が林立するが如き異様な様相を呈し、著しい違和感を生じました。そして5本の木が保水力を失い立ち枯れてしまうと言う最悪の結果となり根元から伐採処置となりました。また、竹の里本通りのトウカエデも強剪定の結果枯れ木となりました。

害虫などによる被害でなく、この様な強剪定と言う人為的な行為での立ち枯れは看過できる事ではありません。いずれも余りにも緑・樹木の特性や景観、洛西ニュータウンや京都市の大切な資源を無視した対応だと言わざるを得ません。低炭素社会を目指す「京都市緑の基本計画」からも大きく逸脱していると考えます。

今後とも洛西ニュータウンの街路樹や公園の樹木の維持管理「剪定や伐採」作業に関しましては、「大切な緑の資源の維持」にご配慮頂きますように強く要望致します。

洛西ニュータウンが開発時の「植栽計画」を基本に「みどりのガイドライン」を策定願い、人や管理体制が変わっても持続的な施策であってほしいと思います。

なお、提案の「みどりのガイドライン」策定に当たり、住民の意見として、当環境部会からもメンバー参加させて頂ければ有難いと存じます。ご検討下さる様よろしくお願い致します。

行政、住民がパートナーシップのもと、真に大切な「洛西ニュータウンの資源を守り、次世代に引き継ぐ」作業に取り組みたいと念じております。

敬具